



日本地質学会関東支部主催



共催 (独) 国立科学博物館

協賛 (社) 全国地質調査業協会連合会 関東地質調査業協会

地質技術伝承講習会：地質技師長が語る地質工学余話シリーズ

この数十年間、わが国の社会基盤施設(道路・鉄道・空港・都市施設・農業施設・ダム・地すべり施設など)は著しく整備されてきました。これら施設建設の建設にあたり、応用地質学もまた大きな役割を果たしてきました。今、これら応用地質学を支えてきた地質技術者から地質技術伝承の講習会を開催します。CPD: 2 単位(CPDH=1)

第6回(6月6日) 「トンネルの地下水問題にどう取り組んできたか (仮題)」

講師 大島 洋志 (国際航業株式会社上席フェロー技術センター長)



武蔵野線新小平駅で地下水の異常上昇によって発生した隆起災害



(新宿分館にて)



1965年九州大学理学部卒業後直ちに当時の日本国有鉄道に入社。東京第二工事局、本社建設局、下関工事局、鉄道技術研究所、外務部などに勤務。1987年民営分割に伴い(財)鉄道総研に移行。1993年より国際航業(株)に移り現在に至る。

若い頃の現場経験をもとに、水収支の観点にたった水文地質学的な地質調査の体系化に努め、これを元に整備新幹線のトンネル路線選定などにも適用した。現在もなお、地下水に起因した難問題をかかえるトンネルのアドバイザーとして多くのトンネル計画や建設に関与している。2000~2003年まで日本応用地質学会会長を務める。

今回は、地質学専攻者である演者が主に山岳トンネルの建設や維持管理の分野で、地質工学的判断が如何に大切なかを理解して貰うためにどのような努力を払ってきたかを中心に紹介したいと考える。

記

●日時 2009年6月6日(土) 午前10時から12時 (開催場所が新宿分館になります！)

●会場 国立科学博物館 新宿分館(入り口より係りがご案内いたします)

〒169-0073 東京都新宿区百人町 3-23-1(新大久保駅から徒歩8分、大久保駅から徒歩6分)

●参加費 無料。

●懇親会 終了後、近くの食堂で懇親会を行ないます。懇親会参加費 4000円程度(予定)

募集人員: 120名 下記の申し込み先まで。定員になり次第締め切らせていただきます。

申込方法: ジオ・スクーリングネット(GS ネット)にて公開される申し込み欄、若しくは、下記担当幹事のメールアドレスまたは日本地質学会事務局へ FAX にて。

申込先 : ジオ・スクーリングネット(GS ネット) <http://www.web-gis.jp/~geo/index.php>
関東支部担当幹事 緒方信一(中央開発(株)) ogata@ckcnet.co.jp(兼、問合せ先)
日本地質学会事務局気付 関東支部 FAX: 03-5823-1156

6月6日当日午後、日本地方地質誌「関東地方」刊行記念シンポジウムおよび、関東支部研究発表会を引き続き開催いたします。併せてご参加下さい。

